

2016年9月11日(日)朝10:10～  
9月第2共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第18、役員会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：小羊、さばきの封印を解く②

聖書：ヨハネの黙示録 6章9～11節

＜口語訳＞

新約聖書392頁

ヨハネの黙示録 6章9～11節

＜新共同訳＞

新約聖書459頁

ヨハネの黙示録 6章9～11節

＜新改訳第3版＞

新約聖書483頁

ヨハネの黙示6章9～11節＜塚本訳＞

新約聖書791頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～3章22節は、エペソ教会ほか7つのアジアの教会への手紙で、4章1～11節は、「天の玉座・御座」の前での4つの生き物と24人の長老の讚美、5章1～14節は、「天の玉座・御座の父なる神の右手にある封印の巻物」を開封でき、その「巻物」を受取る屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美描写、6章1～8節は、「さばきの巻物」の開封、第1～4巻の封印が解かれる箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録6章9～11節は、「さばきの巻物」の第5巻の封印が解かれる箇所です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第6章9～11節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録6章9～10節；ヨハネは、仔羊(羔羊)が巻物の第5の封印を解き、祭壇の下の殉教者を見せられました。

◇9～11節；塚本訳◆第5の封印—殉教者

「9 また彼が第五の封印を開いた時、私は祭壇の下に、神の言のため、またその立てた証のために(かつて)殺された(殉教)者達の(多くの)霊を見た。

10 彼らは大声で叫んで言うた、「聖なる、真実なる主よ、何時まで審かず(に待ち給うのであるか。何時まで)地上に住む(不信)者どもに、(罪無くして流した)私達の血を復讐し給わないのであるか。(主よ、何時まで?)」と、ヨハネは主の受取った巻物第5の開封の幻を啓示された。

◇9～10節；四つの活物の叫びはなく、祭壇の下の殉教者の霊を見せられ、「殉教者」らの彼らを殉教に追いやった人々への神の復讐」を求める叫びを、ヨハネは聞きました。

⇒「**殉教者**」は、**仔羊(羔羊)**が、「**屠られた**」と表現されていたことばと同じ言語が用いられ、**仔羊(羔羊)**が、すべての罪人のために「**屠られた**」のに対し、「**殉教者**」は、「**神の言のため、またその立てた証のために(かつて)殺された**」人々でした。

⇒「**復讐**」について、ローマ12章19～21節では、「**愛する者たちよ。自分で復讐をしないで、むしろ、神の怒りに任せなさい。なぜなら、「主が言われる。復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する」と書いてあるからである。**」、「むしろ、「もしあなたの敵が飢えるなら、彼に食わせ、かわくなら、彼に飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃えさかる炭火を積むことになるのである」」、「**悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい。**」と、パウロによって書いてあり、ヘブル書でも、「**殉教**」が神の与える試練であることが暗に示されていますので、キリスト者は、「**復讐**」の叫びに戸惑います。

⇒大事なことは、「**主のさばき・復讐**」である事!

- ⇒「**殉教者**」たちは、「**復讐**」が目的ではなく、**神の義**が明確に示される「**神の国**」の実現を待ち望んでいるのです。
- ⇒「**神と主と聖霊に対する罪**」は、「**主イエス様の贖い・身代わりの十字架の救い**」を信じる以外の方法では、罪人には与えられません。
- ⇒「**殉教者**」たちは、「**主の救い**」を信じて、「**殉教**」の道を選択した聖徒たちで、「**殉教**」は、「**証し**」の意味をもっていることばですから、彼らの証しは、今日の教会の礎です。
- ⇒「**殉教**」も、キリスト者が望んで受けるものではなく、「**神が受け入れて下さった人々**」に与え、「**神の救いの証人**」とされるのです。
- ⇒私たちは、「**神の復讐**」が、「**神への罪**」に下される厳粛さを決して忘れないという覚悟と共に、「**今あるは神の恵み**」という**神信仰**を全うさせていただきたいと願います。
- ⇒「**殉教者**」の叫びと祈りが、「**神の国実現**」であることを覚え、祈りを1つにして行きたいと願います。
- ⇒礼拝の度に、主の祈りや使徒信條を祈り、告白しますのは、このことのためです。

◆ 黙示録6章11節 ; ヨハネは、**殉教者**たちに神が定めた**殉教者の数が満ちるまで**、待てと語り、**白上衣**が**殉教者**を与えられるのを見た。

◇ 9～11節 ; 塚本訳 ◆ **第5の封印** — **殉教者**

「11 すると各自に白い上衣が与えられ、自分達と同じく殺されねばならぬ僕仲間と兄弟達と(が殺されて、神の定め給うたそ)の数が満つるまで、なお暫くの間休息んで(静かに待って)いるように彼らに言い聞かされた」と、ヨハネは主の受取った巻物**第5の開封の幻**を啓示された。

◇ 11節 ; 「**殉教者**」たちは、肉体を離れた「**霊・魂**」ですので、ヨハネには、**神**が特別に見せて下さったというほか表現がありません、しかも、「**殉教者**」に「**白い上衣**」が与えられ、「**僕仲間と兄弟達と(が殺されて、神の定め給うたそ)**」の数が満つるまで、なお暫くの間休息んで(静かに待って)いるように彼らに言い聞かされた」と、あります。

⇒「**白い上衣**」の解説はありませんが、「**神の勝利、純潔、聖徒のふさわしさ**」などを表現していると、思われ、**神の国への保証**です。

- ⇒先に**神のみもとに帰った人々**が復活し、地上に生きながらえている人々を、**再臨の主**とともに向けに来て下さるのです。
- ⇒今は、迎える側になるのか、迎えてもらう側になるのか、全くわかりません。
- ⇒大事なことは、「**復讐**」ということにこだわらず、「**殉教者**」と同じ「**白上衣・キリスト・イエス様**」を既に着せていただいている「**神の子供**」であることに確信をもって、地上の「**神礼拝・神讚美**」に全力で生き抜かしていただくことです。
- ⇒**手を鋤にかけてからうしろを見る者**は、**神の国にはふさわしくない**、と心に決断をすることが、今日の私たちに一番ふさわしい生き方です(ルカ9:62)。
- ⇒**ヨハネ**は、肉体を失った「**霊・魂**」が見えたり、「**白い上衣**」を着せられるのを見ましたが、まだ、**主の再臨**が来ていませんので、「**殉教者たち**」は、**神の国の救いの保証**として、「**白い上衣**」を着せられるのを**ヨハネ**に見せ、兄弟**ヤコブ**、弟子の筆頭である**ペテロ**、異邦人伝道者**パウロ**や**ステパノ**を思わせた!

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～3章22節は、エペソ教会ほか7つのアジアの教会への手紙で、4章1～11節は、「天の玉座・御座」の前での4つの生き物と24人の長老の讃美、5章1～14節は、「天の玉座・御座の父なる神の右手にある封印の巻物」を開封でき、その「巻物」を受取る屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美描写、6章1～8節は、「さばきの巻物」の開封、第1～4巻の封印が解かれる箇所です。



◇ヨハネの黙示録6章9～11節は、「さばきの巻物」の第5巻の封印が解かれる箇所です。

⇒第1巻は、白馬で、「戦争」、第2巻は、赤馬で「内乱・内戦」、第3巻は、黒馬で「飢饉」、第4巻は、青ざめた馬で「死」によるさばき宣告でした。

⇒これらの神の終末のさばきは、すでに地上で起こっていることではありますが、ヨハネの黙示録は、「戦争、内戦、飢饉、死」は、神のさばきであるとの認識を喚起しているのです。

⇒第5巻の封印開封は、「祭壇の下の殉教者」を、ヨハネに見せて下さる出来事であり、彼らの叫びは、「神の復讐」を求めるものでした。

⇒ヨハネも、私たち、地上の教会に属する者たち、聖書を神のことばと信じる者たちは、「復讐」は、神のなさることと信じています。

⇒決して、「復讐」は、「屠られた殉教者」も含めて、人間が主体的にできることではありませんが、「殉教者」の叫びには、「神の国実現」を切望する現実もあります。

⇒極論すれば、キリスト者として生きて、辛い経験をしています全ての人々の願いです。

- ⇒日本の場合、「**戦時下のキリスト教**」 宗教団体法  
をめぐって(教文館)が出版されましたが、「**戦争**」と  
いう出来事の中に巻き込まれることが何を  
意味するかを問いかけています。
- ⇒結果として、最初は簡単な条項しかなかった  
宗教団体法が次々に諸規定などが追加され、  
宗教弾圧へと進んでいるのです。
- ⇒「**神中心の信仰の生活**」が、「**神なき人間中心  
の生活**」へと飲み込まれる時、「**殉教者**」の  
叫びは、現実になるのです。
- ⇒特に、「**神の国**」の実現を切願し、「**主の再臨**」  
を求めたある教団は、別の王・支配者を求め  
ているという理由づけでの弾圧を受け、獄中  
死さえも出しています。
- ⇒アライアンスの群れでも、フィリピンで、宣教師  
が獄中死をしています。
- ⇒死にいたらないまでも、多くの牧師、宣教師が、  
獄中生活を強いられて来ました。
- ⇒「**殉教者**」の叫び・祈りは、すべてのキリスト者  
の心の叫びと言ってもよいのではと思います。
- ⇒「**戦争**」は、指導者も、指導される者も、**神なき**  
に生活に巻き込まれることを心にとめたい。